

永遠の別れ

「細雪」の撮影を終え、パリのサンルイ島にある自宅に帰った私はキッチンへ直行して冷蔵庫を開けた。シャンパンの瓶がぼつんと立っていた。冷やしたのは半年ほど前

私の履歴書

子 恵 岸

26

「パパが…」娘が国際電話

飲まなかったシャンパーニュ

中になり、危険な障害コンクリールに次々と挑戦して、優勝カップを部屋に並べた。

喜んで通っていたクラシックバレエも辞め、空手道場に

通い出したのは12歳の時だった。子供から大人へ、ブルジョア的生活からドロップアウトした野趣の匂いがある生活へと自分を改革していった。

1982年、夏の終わりのその日。機嫌よく最後まで食

の昼食をいつもともにした。けれど私の料理が並んだ食卓に娘が最後まで同席することとはまれだった。口実をみつめて中座することが多かった。その都度、父親の切ない面差しを見るのは辛かった。太陽のように明るい娘は寡黙になり、偉大なピアニストである祖父が贈ったピアノに二度と手を触れなくなった。ピアノをやめた娘は乗馬に夢

卓にいた娘がデザート冷えたシャンパンを父に渡した。「ママが旅に出るの。パパとママにお別れのシャンパーニュを飲んでほしいの」「別れのシャンパーニュ？恵子はいっ帰ってくるの」「今度は長い。『夕暮れ』というテレビドラマと市川崑監督の『細雪』の撮影でパリに帰るのは年明けかも」「ほんとに長いんだね」

やしておいたのに」と娘が言い、「今日あなたと飲みたいな」と私も言った。「どうしたの。今生の別れみたいなことを言ってる」と笑みながら、彼は冷蔵庫の内扉にルイ・ロデレール・クリスタルの瓶をストンと収めた。「2月9日はママ、必ず

のね。疲れている声ね」「日本は真夜中よ」「ごめんなさい。明日かけるわ。私はとても大丈夫。心配しないで」「何があったの」「娘の様子に胸騒ぎがした。「何かあったのね」「パパが今朝倒れたの」「どうして？」「どこにいますの。電話代わって」「パパは電話には出られません。私がついていきます」「何言ってるの」「ママ、ママン……。パパは今朝死にました」「私は絶叫したよ



イヴ・シャンビと（パリの自宅）

帰って来てよ。3人一緒よ」

娘の珍しい激しさに私たちは驚いたり、喜んだりした。

翌83年、約束の2月9日。62歳を迎えるはずのその人は

来なかった。「細雪」を撮影していた82年11月5日の深夜に娘から国際電話があった。

「ママ、起こしちゃった

うだった。

「死んだなんて、何をふざけているの。あなたが冷やしたシャンパーニュ、まだ飲んでいないじゃないの」

私は支離滅裂に壊れていった。「来年2月9日に」と手を振った笑顔が私が見た元夫の最後になった。（女優）